

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2017年2月20日～2017年2月26日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成28年3月2日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼行政境界線通過点の閉鎖に関するEU声明(25日)

・アブハジアの行政境界線の通過点の閉鎖に関し、欧州対外行動庁が報道官声明を発表。声明は、「人道目的での通過を含む移動の自由を保障するため」通過点の維持を求めるとともに、「ジュネーヴ国際会議の参加者は紛争の被害を受けた住民の安全・生活環境の向上に建設的に取り組まねばならない」と述べている。

2. 外 政

▼ナゴルノ・カラバフでの「住民投票」に関する外務省声明(20日)

・20日にナゴルノ・カラバフで行なわれた「住民投票」について、同日、ジョージア外務省は「住民投票」およびその結果を認めないとの声明を発表。

▼外相の訪米(20日～23日)

・ジャネリゼ外相が訪米。21日、グテレス国連事務総長と会談し、ジョージアおよび地域の平和・安全保障、持続的発展に向けてジョージアが達成した成果、ジョージア・国連間の協力の見通しなどについて議論。「ジャ」外相は被占領地域の問題への国連の更なる関与の必要性を強調した。「グ」国連事務総長は、ジョージアに対する国連の堅固な支持と協力の継続に対する用意を確認した。

・同21日、国連安全保障理事会でのウクライナをはじめとする欧州での紛争に関する公開討論に出席。シーヤールトー・ハンガリー外相とも会談。

▼アルメニア首相のジョージア訪問(23日～24日)

・カラペチャン・アルメニア首相がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、クヴィリカシヴィリ首相らと会談。

・「ク」首相との会談では、様々な分野における二国間協力について議論し、友好関係の促進を約束。地域情勢についても議論され、両国の発展に対する平和と安定の重要性が強調された。

・会談後の共同記者会見で「ク」首相は、4月2日に予定されているアルメニアの国会選挙が国際的な基準と民主制の原則に完全に合致して実施されるよう期待を述べた。

「カ」アルメニア首相は、「我々はジョージア国民がアルメニアを投資し、訪問する価値のある国であると考えている」と述べた。

・ジョージア労働・保健・社会保障省とアルメニア保健省の医療の分野における協力に関する合意への署名が行

なわれた。

▼米連邦議会代表団のジョージア訪問(25日)

・ロスカム議員(共和党)、プライス議員(民主党)ら、米連邦議会代表団がジョージアを訪問。コバヒゼ国会議長、クヴィリカシヴィリ首相らと会談。代表団はジョージアの改革と前進を讃えながら、ジョージアに対する連邦議会の支持の継続を約束した。

▼移民・内政・市民問題担当欧州委員がジョージアを訪問(26日～27日)

・アヴラモプロス移民・内政・市民問題担当欧州委員がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、コバヒゼ国会議長、クヴィリカシヴィリ首相、ジャネリゼ外相、ドリゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣らと会談。ジョージア側は査証自由化プロセスへの「ア」欧州委員の貢献に感謝を述べた。

3. 内 政

▼ジョージア正教会をめぐる動き

・高位聖職者の毒殺を企図したとして拘束下にあるママラゼ首輔祭が肺炎により病院で治療を受けているなか、20日、療養先のドイツよりイリア2世総主教が帰国。

・20日、マルグヴェラシヴィリ大統領およびコバヒゼ国会議長がイリア2世総主教と会談。翌21日には「マ」大統領とクヴィリカシヴィリ首相が総主教府の高位聖職者たちと会談。その後、「マ」大統領は、ママラゼ首輔祭について推定無罪の原則が犯されたとして、政治的な干渉なく真実が明らかにされねばならないと述べた。

▼自由民主主義者党が党首を選出(19日)

・自由民主主義者党が党大会を開催し、党首にシャヴグリゼ氏を選出。「シャ」新党首は、党の形態と方針に変更はないとして、「国家の主要な関心事は人権と自由でなければならない。ジョージアを民主的な法治国家に変える最もよい方法は欧州との統合である」と述べた。

・「シャ」新党首は2012年の国会選挙にジョージアの夢・民主ジョージア党(GDDG)から立候補し当選。国会法務委員会副委員長を務めた。その後、2014年11月にGDDGを離党し、自由民主主義者党に加わった。

・党大会に出席したアラサニア前党首は、今後も自由民主主義者党員であり続けながら、米国でビジネス活動を行なうと述べた。

▼エングリ水力発電所の操業停止(19日)

・既に予告されていた通り、2018年に予定されている水力発電所の大規模な改修工事に向けた予備的な作業として、トンネルの点検を行なうため、エングリ水力発電所

が一時的に操業を停止。操業の再開は約 2 週間後となる見込み。

・ジョージア・エネルギー省の発表によれば、水力発電所が操業を停止している間のアブハジアの電力は「主にロシアのエネルギーシステムから」供給される。また、「アブハジアでの電力消費量の増加に起因する」不足分についてはジョージア側から供給される。

▼教育科学相の副首相への任命(21日)

・クヴィリカシヴィリ首相がジェジェラヴァ教育科学相を 3 人目の副首相に任命。「ジェ」副首相は社会との関係および若年層に対する政策を担当する。

▼アムネスティ・インターナショナルの報告書(23日)

・2016 年の世界各国の人権状況に関する最新の報告書で、アムネスティ・インターナショナルはジョージアについて、TV 局「ルスタヴィ 2」の所有権をめぐる裁判、光ファイバーケーブルの調達に関する国防省職員の汚職事件、欧州人権裁判所へのメラビシヴィリ元首相の訴えなどに言及し、「国内外から司法の独立の欠如および選択的司法に関する懸念があがっている」と述べている。また、法執行機関による人権侵害に対する「独立の捜査メカニズ

ム」を設置できていないと指摘。更に、アブハジア・南オセチアの行政境界線上に建設された障害物が住民の自由な移動を制限していること、および、拘束者に対する虐待の可能性を問題として挙げている。

4. 経 済

▼2017年1月の工業製品生産者物価指数(20日)

・国家統計局が発表。前月比 2.3%上昇、前年同月比 9.8%上昇。

▼2017年1月の貿易統計(20日)

・国家統計局が 2017 年 1 月の貿易統計(速報値)を発表。貿易額 651 百万ドル(前年同月比 22%増)、輸出額 177 百万ドル(同 45%増)、輸入額 474 百万ドル(同 15%増)。

・輸入相手国の内訳は EU 諸国 27%、CIS 諸国 34%。輸出相手国の内訳は EU 諸国 31%、CIS 諸国 20%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、ロシア、中国、ドイツ、ウクライナ、アルメニア、イタリア、ルーマニア、米国。

・日本との貿易高は輸出額 301.9 千ドル、輸入額 7,953.9 千ドル。